

ダイダンら

バイオガス供給事業を開始

小規模分散型で地産地消

ダイダンは、兼松、レストランを全国展開するアレフ（本社・札幌市、庄司昭夫社長）、日本総合研究所と共に、バイ

ストで高効率の装置で精製後、高圧容器に圧縮充填した後に運搬し、約15キロ離れた恵庭市内のアレフの食品工場にガス燃料として供給する。わが国

オガス供給事業を始めた。北海道千歳市内の牧場に設置した家畜排せつ物処理用のバイオガス発酵プラントから発生する余剰バイオガスを、低コ

ス物などへの展開も考えられることから4社は、今回の事業を機に小型分散型のバイオガス供給事業を拡大する予定だ。

事業は、バイオガスの可能エネルギー供給事業発酵槽の加温用に使うも

る。精製機は95%以上でメタン濃縮可能で、液相吸収法、膜法といったほかのメタンガス精製設備と比べ、脱硫性能、維持管理の容易性、低消費電力運転などの面で優れて

いる。環境省の地球温暖化対策ビジネスモデルインキュベーター（起業支援）事業として補助金を受けており、年間82トンの二酸化炭素（CO₂）削減効果があるという。

兼松が幹事会社を務め、アレフが受け入れ設備関係、日本総合地所が事業スキームの構築、ダイダンが電気設備関係を中心的に手掛けた。

国内の有機性廃棄物の全量をバイオガス化し1立方メートル当たり70円で供給した場合、約2300億円の市場規模があると推計されている。